

(平成29年11月18日)

「松平忠固公を語る講演会&トークセッション」の参加報告

H29. 11. 12 (土)、上田市願行寺の本堂にて、明倫会（上田藩主松平家ゆかりの子孫有志の会、会長：布施修一郎氏・65期）主催の表記イベントが開催され、参加してきましたのでご報告致します。当日会場には上原関東同窓会会長を始め六五会メンバー他、地元も含め多くの同窓生の参加もありました。

<内容>

○基調講演1 講師：関 良基氏（86期）

演題：「明治維新神話の虚構を正し、松平忠固を再評価する」

概要～前半の「明治維新神話の虚構を正す」については、従来のいわゆる薩長史観に基づいた「無能な幕府が朝廷の意向を無視して米国の言いなりに開国した」という解釈の過ちを指摘し、また、憂国の情に駆り立てられた『志士』たちが老中松平忠固主導の開国を『違勅』と紛糾した過激な尊王攘夷運動が、日本の外交・交易に大きな損害を与えたことを、下関戦争を例に説明があった。

後半の「松平忠固を再評価する」については、忠固主導で勅許なしで締結した日米修好通商条約は関税率が20%であった（英国とインドは2.5%、英国と清国は5%）ことなどから決して不平等条約ではなかった、むしろ英国が清国の次に日本に開国を迫って不平等条約を結ばされる前に米国と平等条約（もちろんアヘンは輸入禁止）を締結したことの意義は重要と指摘。また、生糸中心の輸出を奨励することで日本の独立の基盤を作ったとの指摘があった。また、横浜港の生糸輸出における最大の生糸売込商人の中井屋重兵衛（孀恋村出身）とその大番頭中井屋重右衛門（丸子出身の医者松田玄仲）の紹介もあった。

○基調講演2 講師：尾崎行也氏（郷土史家、長野県史執筆委員、上田市史編纂・執筆委員）

演題：「松平文学校・明倫堂と上田藩～櫻井純蔵をめぐって～」

概要～藩校・明倫堂は上田藩の優秀な人材養成機関であり、藩の若者のあこがれの場所でもあった。文久9年（1812年）当時役職者は校長（惣司）を含め11人であったが、最盛期の万延元年（1860年）には役職者総計37人を擁し、その中には櫻井純蔵（会読頭取兼句読師）や芦田柔太郎（会読頭取・赤松小三郎の兄）等がいた。

講演では櫻井純蔵を取り上げ、櫻井家略譜を基に祖父の代からの上田藩及び明倫堂との関わりについて詳しい説明がなされた。櫻井純蔵は八木剛助と共に上田藩の兵制の洋式化に貢献した人物で、また、赤松小三郎の兄・柔太郎と交流があった関係で赤松小三郎とも繋がりがあった。維新後は明治3年宮内省に勤め、明治15年宮内省大書記官になった。

○トークセッション

- ・登壇者：関 良基氏、尾崎行也氏、本野敦彦氏（会社経営、脚本家）、浦辺信子氏（松平忠固公の玄孫）、芳賀俊州氏（忠固公の三女ご親戚）
- ・司会： 布施修一郎氏

※トークセッションの前に、本野敦彦氏（日本の開国を主導した忠固に思いを寄せて忠固を主人公にした映画脚本を執筆済み）から、「一般人として（上田人・学者でなく）驚いた史実」と題した追加講演があった。

※トークセッションで語られたこと（以下、一部をランダムに記します）

- ・忠固と明倫堂の関係について・・・国元のことは家老に任せていたので忠固は直接は関わっていなかったはず（尾崎氏）
- ・忠固は暗殺された？・・・資料がないので今のところ不明、ただ日米修好通商条約を勅許なしで締結直後に老中を罷免され、翌年に急死（47歳）しているので、謎（本野氏・・・ご自身の脚本では暗殺説）
- ・関税の話について詳しく・・・当時英国と違って覇権的でなかった米国と条約を結ぶことによって米国を味方に付けた、ということ。また、条約締結に際しては岩瀬忠震、井上清直という優秀な幕閣が交渉全権として対応した（関氏）
- ・忠固の三女は須坂藩主堀直虎（将軍慶喜を叱った男）に嫁ぎ、直虎亡き跡は中沢家に再度嫁いでいる。芳賀氏はその中沢家の関係から忠固を知ったとのこと。
- ・忠固はなぜ歴史から埋もれているのか？（昨夢紀事などでは悪口ばかり、東大系の歴史学者らが認めないとだめ？）・・・今後、史実に基づいた客観的な論文を多く出していく必要がある（尾崎氏）

<感想>

トークセッションの最後に尾崎行也氏が「上田には真田氏以外にもあることを、まずは上田の人々が知るべき」とおっしゃったのが印象に残りました。

今回このイベントに参加して、主に松平忠固の老中としての功績についていろいろ勉強になりましたので、これをきっかけに赤松小三郎の他にも幕末から明治維新にかけての上田藩の動き、上田の養蚕・製糸業、真田氏以降の仙石氏時代・松平氏時代、等についても勉強していきたいと思いました。

報告者：荻原 貴（79期）

<ご参考>

松平忠固（忠優）略歴～作成：荻原 貴

文化9年(1812)7月	播州姫路藩主酒井雅楽頭(うたのかみ)忠実(ただみつ)の次男として生まれる
文政12年(1829)	上田藩主松平忠学(たださと)の婿養子となる
天保元年(1830)4月	忠学を継いで6代松平上田藩主となる(18歳)
天保4年(1834)	天保の大飢饉始まる
天保5年(1834)	奏者番 に就任(22歳)
天保9年(1838)	奏者番兼 寺社奉行 に就任(26歳)
天保10年(1839)	水野忠邦、老中首座に就任
天保12年(1841)	天保の改革始まる
天保14年(1843)2月	天保の改革をめぐり老中水野忠邦と対立し、両役を罷免される
” 9月	水野忠邦、老中首座を失脚
弘化元年(1844)6月	水野忠邦、老中首座に復帰(→翌弘化2年2月辞職)
” 12月	奏者番兼寺社奉行に復帰
弘化2年(1845年)3月	大坂城代 に就任(33歳)
” 9月	阿部正弘、老中首座に就任(27歳)
嘉永元年(1848)10月	老中 に就任(36歳)
嘉永6年(1853)	ペリー来航
嘉永7年(1854)	日米和親条約締結
安政2年(1855)8月	老中を罷免される
安政3年(1856)	忠優(ただます)改め 忠固(ただかた) へ改名
安政4年(1857)9月	老中に復帰(老中首座堀田正睦の次席・45歳)
安政5年(1858)4月	井伊直弼、 大老 就任
6月	日米修好通商条約締結を推進、調印直後に堀田正睦と共に老中を罷免される
安政6年(1859)9月	急死(47歳)、嫡子忠礼(ただなり・10歳)が家督を継ぐ

次ページ以降に関連写真

松平忠固公を語る 講演会&トークセッション

近代日本に至る上田治政の礎を築いた上田藩主松平氏、
日本を開国へと導いた松平忠優(忠固)公を語る



松平忠優(忠固)
所用具足
(上田市立博物館蔵)

※基調講演1 関 良基氏

上田市生まれ。拓殖大学准教授。
著書に『赤松小三郎ともう一つの明治維新：
テロに葬られた立憲主義の夢』ほか。

※基調講演2 尾崎行也氏

郷土史家。長野県史執筆委員、上田市誌編纂・
執筆委員。信濃史学会・東信史学会会員。
著書に『上田古地図帖』ほか。

※トークセッション

関 良基氏、尾崎行也氏、本野敦彦氏(忠固公に
関する脚本を執筆)、浦辺信子氏(忠固公玄孫)・
浦辺千鶴氏(浦辺信子氏ご息女)の5名で忠固公
について自由討論を行います。

日程 平成29年
11月12日(日)

開場 12:30

開会 13:00

会場 上田藩主松平氏菩提寺
願行寺本堂
(上田市中心2-16-14)

**入場
無料**



会場の願行寺には駐車場がありません。
周辺有料駐車場をご利用ください。

主催：明倫会 特別協賛：真田神社

後援：上田市、上田市教育委員会、上田・城下町活性化会、東信ジャーナル社、信州民報、
週刊上田新聞社、UCV上田ケーブルビジョン

【お問い合わせ先】明倫会 TEL 090-2759-3210 (中村)

